

〔曲名〕 Danza delle Lucciole

蛍の舞曲

〔曲種〕 Intermezzo

間奏曲

〔作曲者〕 A.Amadei

アメデオ アマディ

〔編曲者〕

1915年からイタリア・ミラノのモンツィーノでマンドリニスタ・イタリアーノとゆう定期刊行（月二回）のマンドリン楽譜が出版されていた。

殆どがオリジナル作品で1938年まで通算 600号を越えている。

本曲はここで1929年12月号（345号）に発表を見たもので、作品 292番の間奏曲。

作者は1935年に亡くなっているから比較的後期の作品に当たるが、出版年は必ずしも作曲年と一致しないし、

作品表の上から検討するとむしろ中期のものに属する。

死の前年に発表された「白い蝶」が作品 480番で、1923年に発表された「降誕祭の印象」が作品 392番であることを見ても判る。

本曲より 6年前に出版された作品が作品番号の上では 100番もあとになっている。

古来昆虫類では蝶、蜻蛉（とんぼ）、蜂、蛍が多く題材となっており、マンドリン音楽にも非常に多い。

奇しくも之もガボット調で、跳躍する旋律に特徴がある。

蛍と言えば我々は明滅する淡い光を真先に連想するが舞曲として動きを促えたところに東洋人とは促え方に差がある。

1970年11月30日発行

イタリアマンドリン百曲選第9集より